

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272600972		
法人名	社会福祉法人 八千代美香会		
事業所名	グループホーム美乃里		
所在地	千葉県八千代市村上573-5		
自己評価作成日	平成 24 年1月25日	評価結果市町村受理日	平成 24年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

将来的な安心を約束できる介護ノウハウを蓄積している安定した社会福祉法人の運営する数少ないグループホームとして日々頑張っています。利用の敷居を低くする為、費用を低く抑えようとにも、通院は家族任せにし負担増大を招かないよう、基本的にスタッフで対応することで状態把握の一助としています。待機者が多数にのぼっていることから、当ホームの援助や環境が利用者や地域に認められていると実感しております。また、広い共有スペースを生かした援助を提供すると共に、併設しているデイサービスや地域に開放している多目的ホールなどを活用し、地域との交流を進めています。隣接する特別養護老人ホームとも密接に連携し、互いにレクや行事を企画・実施するなど、地域で最後まで楽しく穏やかに暮らせる環境を整えております。生きる力の源をどんどん増やすことが出来るような皆様の「家」になれるように頑張っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、併設のデイサービス事業所や隣接の特別養護老人ホームと密接な連携が採られており、利用者の状態に応じて医療面を始めとして最適なサービスが受けられる体制が出来ている。利用者の状況の変化に対し迅速な対応がとられる事で、家族にとって大きな安心感が得られている。「居心地の良い家を作ろう」と言う簡潔で分かりやすい理念を掲げ、利用者が家庭での生活と同じような居心地の良さを感じていただけるような「家」にするよう職員全員がサービスの質の向上と改善に日々努めている。例えば今回のアンケートに関する良好な反応が出ており、利用者家族の声に迅速に対応・改善されている事が窺える。また当ホーム2階の多目的ホール(みのりホール)を地区自治会の会議室として開放したり、保育園児の訪問交流や中学生の体験学習の定期的な受け入れ、地域団体の施設見学会の受け入れ等幅広い交流を通じて、利用者が地域と繋がりがながら暮らし続ける事が出来るよう工夫し実行している点を高く評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地の良い家を作ろう」を合言葉に、理念を掲示し、入居者の皆様にとっての「家」になれるように、少しでもそれに近づけるよう、職員一同努めています。	「居心地の良い家を作ろう」という簡潔で分かり易い理念を玄関や各フロアーの壁につきやすい場所に掲げ、職員一同が共有と実践に繋げる努力をしている。ホームは職員の働く場所であるが、先ずここは利用者にとっての「家」であるという認識を持つようユニット会議等で繰り返し強調し、職員間の意識にズレが生じないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の日課となっている散歩を通して、近隣住民の方とも顔なじみとなり、良い関係が築きあげられてきていると感じております。また年間を通して市内の中学校より職場の体験学習で生徒さんが多数いらっしゃいます。	市内の中学校からの職場体験学習を、年間を通して受け入れており、また同法人運営の保育園との交流も活発に行なわれている。ホームの施設「みのりホール」を自治会の会議等に開放し、地域との交流が円滑に進むような体制が構築され良く機能している。地域の人達への認知症の理解にも役立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の保育園児や小学生との交流会、中学生の体験学習、また、地域団体の施設見学会が定期的実施されています。幅広い年齢層の地域の方とコミュニケーションを図っていくことで、認知症の理解などの一翼を担っているのではないかと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員、民生委員、介護相談員の方々に参加していただいています。今年度に関しては、定期的な開催ができませんでした。テーマを持って話し合いや意見交換を行い、サービスの向上に活かせる会議を行ってきたいと考えています。	この1年は管理者の交替等種々の要因で運営推進会議の開催回数が減少した。地域包括支援センター・民生委員・介護相談員の参加で事業報告・ホームの現状・行事計画等について話し合っている。管理者は単なる報告会に終始しないため、テーマを良く考え意義ある会議を目指している。	運営推進会議で参加者からの意見や提案等が多く出されるよう、毎回テーマを設けて活発な意見交換の場になるよう工夫されるよう希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のHPを利用した空室状況の公開や、生活保護者に向けた料金設定など、市町村担当との連携を図りながら日々の運営を行っています。	市の長寿支援課や生活支援課とは、利用者の支援を通じて連携を密に取り、市との協力関係が構築され日々の運営に活かしている。また市から「地域密着型サービス委員会」の施設見学会も定期的に受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが正確に理解しているとはいえませんが虐待や拘束について注意を喚起し、身体拘束を行わないケアは実践しています。高齢者福祉施設協会主催の身体拘束廃止研修にも参加しています。内部研修等を通じて全職員に知識を浸透できる環境をつくっていききたいと思っております。	高齢者福祉施設協会主催の身体拘束廃止研修に参加したり、内部研修等を通じて身体拘束をしないケアに努めている。クルマ椅子から立ち上がってしまう利用者にも必ず職員が見守り介助で支援し、拘束帯などは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義についても、各スタッフへ周知しています。(身体的な暴力だけが虐待ではない由)また管理者として話を聞きやすい雰囲気心掛け、内部で隠蔽する事の無いよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、左記制度を必要とされている方はいらっしゃいません。制度についての細かい内容は研修等を通して理解を深める必要があると考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は管理者ならびに法人本部へ報告し、すばやい回答を心掛けています。また、第三者(国保連や市町村・第三者委員)への相談が出来ることも重要事項説明書に明記し説明しています。	家族来訪時職員との面談で意見や希望を伺っている。またクリスマス会・敬老会開園記念日・納涼会等には家族の参加を呼び掛け、この機会に意見を聞き取り、ユニット会議の場で検討して運営に活かしている。定期的に「状況報告」と「みのり便り」を使って利用者の状況を発信しているので、アンケートからは安心と感謝の声が多く見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各スタッフの意見を聞く場として、毎月のユニット会議に参加しています。個々に話をする機会は特別に設けてはいませんが、スタッフの意見や提案をなるべく多く汲み取っていき、やりがいをもって仕事に取り組んでもらえるよう配慮しています。	管理者は、毎月の各ユニット毎の会議で職員が意見等言いやすい雰囲気作り努めており、意見や提案を酌み取っている。希望休を出来るだけ叶えられるようにしてやり甲斐・働き甲斐のある職場作り努めている。結果として、職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、それに伴う給与・賞与の支払いなどで向上心を保てるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や高齢者福祉施設協会主催の研修になるべく参加できるよう配慮しています。また国家資格取得時の登録費用助成や資格手当での支給、法人内での受験対策講座の実施など、資格取得への支援を行っています。隣接する特養との合同の内部研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホームと交流の機会を作り、情報交換等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には必ず見学にお越しいただき、本人と話しをする機会を設けています。不安を訴えられる場合も含めて傾聴し、前向きに入居いただけるような働きかけを意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず見学にお越しいただき、なぜ入居を検討されるのかを伺っています。質問にもお答えし、不安や悩みを出来るだけ表出頂けるよう働きかけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス以外の相談があった時は、希望されるサービスの事業所紹介や保険者への取次ぎなどの相談対応も行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間が家族より長いことから、共に暮らす家族に近い関係を目指しています。家事や日々の業務も助け合いながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な協力を依頼させていただきながら、サービスを提供しているのが現状です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会はもちろん、面会自体が自由になっています。	利用者にとって最も大切な家族の面会を積極的に受け入れ、居室や面談室での交流が行なわれている。併設デイサービスとはボランティアが実施するお話会や紙芝居等で交流が図られている。入所歴の長い利用者にとって最も身近な馴染みである職員の定着率が高いため利用者の安心に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては職員が間に入って円滑にコミュニケーションが図れるように日々支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特別養護老人ホームに移動された入居者のご家族とも、関係が継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての要望に100%応えることはできませんが、出来る限り、本人の希望を叶えた生活を提供しています。日常のコミュニケーションの中から本人の希望や意向を汲み取り、職員間で共有・実践できる環境を心掛けています。	思いや意向の酌みとりは、出来る限り利用者本人の訴えを聞く事で対応している。その人の生活リズムを把握し、申し送りノートや月間報告を使って希望に沿ったサービス提供ができるよう心掛けている。管理者は今後の課題としてセンター方式の活用を検討しており意欲的である。	センター方式を活用することによって、利用者一人ひとりの思いや生活史・履歴・今迄の人間関係等をもっと多く把握し職員が共有することで更なるサービスの質向上に活かされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴をうかがって、ホームでの暮らしの中で快適な日々が送れるよう意識しながら援助しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議、毎日の生活記録と月まとめの記録をとることで、状況の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス以外にも、毎朝の申し送りを通して意見・情報交換を行い、日々変化する入居者の状態に柔軟に対応できる体制を整えております。基本としてカンファレンスに家族の参加は要請しておりません。	申し送りノート・毎日の記録・会議録・月間報告を全職員で検討して利用者個々の課題を探り介護計画に組み入れている。作成責任の介護支援専門員も介護の現場に入っており、利用者の現状に合ったケアプランとなっている。	ケアプランに家族の希望は概ね反映されているが、今回のアンケートからは一部差が見られる。家族の参加を呼び掛け、希望や意見を酌み取り、計画に反映されるような工夫をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と月まとめの記録をとることで、状況の把握に努めています。記録は四半期に一度、ご家族に送付し、現状把握の一助としてお使いいただけるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスはもちろん、隣接する特養やデイサービス・居宅支援・ショートステイなどと連絡を取り合い、さまざまな観点から支援できていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、左記機関と協力が必要な方はいらっしゃいませんが、要望や必要性があれば、支援していきたいと思ひます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医との協働は非常にうまくいっています。他の医療機関受診も自由です。周辺に多様な病院があるため、かかりつけ病院にこだわらず、ある程度の希望に応じた医療が受けられるよう支援しています。	家族の負担軽減のため、近くのかかりつけ医受診には職員が付き添い支援している。協力病院から週1回の往診を受けており、隣接する特別養護老人ホーム常駐の看護師が同席している。協力病院との連携が密に取られており、看護師が利用者の健康管理と医療面の支援を行なっているため、利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特別養護老人ホームの看護師が当ホームの入居者の健康管理と医療活動の支援を行っています。看護職との連携はうまくいっていると思ひます。主治医往診日も看護師が同席しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ADLの低下予防の為にも、なるべく早く退院できるように、MSWなどと連携しながら援助を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向が見え始めた時点で今後の方針について主治医や御家族と話し合いをする機会を作っています。開設して六年が経ち、入居者のADLも全体的に低下傾向にあります。隣接する特養への移動体制も整っています。	重症化に向けた方針について、入居契約時にホーム・利用者家族間で隣接の特別養護老人ホームへの移動等に関する同意が得られていて、体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には管理者またはユニットリーダーの指示を仰ぐこととなっています。関係マニュアルは休憩室で常に閲覧できる状態にあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行い、隣接する特養と連携した防災活動の訓練を行っています。3日分の食料・水の備蓄も行いました。	スプリンクラーの設置完了で防災の設備は充分整えられた。年3回の避難訓練は併設の施設と共同で実施し、うち1回は消防署指導の下、火災訓練及び消火器訓練を行い習熟度を上げている。3日分の食料、水の備蓄もできている。	防災訓練にも自治会との連携を取り参加を要請して有事の際の援助が得られる関係作りが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねないよう、言葉使いや接遇には十分配慮しています。	尊厳を損なわない接遇の為に職員間で気がついた時やユニット会議で議題にして全員の意識の等質化を図っている。利用者一人ひとりのニーズの把握に努め、その人に合った接遇をする様充分配慮がなされている。	一人ひとりのニーズの把握の為に、入所時の家族・本人の聞き取りだけでなく、例えばセンター方式を活用し、きめ細やかな履歴や要望の把握が大切と考える。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり、100%ではありません。天候にもよりますが、必ず散歩の機会は提供し、ホームの中だけで一日が終わることのない様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事の時間は設けていますが、「もう少し横になって休んでいたい」という方に対しては、無理強いせずに食事の時間をずらして対応するなどして、一人ひとりのペースに合わせたケアを心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては、現状の訪問美容室で満足されているようです。カラーリングやパーマを希望される方も多数いらっしゃいます。また、近所の理髪店を利用されている方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節の食材を用いて食事の時間を楽しんでいただけるように週に一回、朝昼晩と献立作りから食材の買い出しまでをスタッフが行っています。また、隣接する特別養護老人ホームから管理栄養士に来てもらい検食を行うことで、より充実した食生活になるよう配慮しています。	火～日は法人契約の食材業者より栄養とカロリーに配慮された食材が配達され、職員が調理して提供し、月曜は利用者の希望を容れた食事となっている。おやつは利用者と一緒に作り楽しみとなっている。料理が美味しいと、今回のアンケートには素晴らしい声が出ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週の5日間は食材配達サービスを利用しています。献立は栄養士が考えておりバランスの取れたメニューになっています。糖尿病や肥満傾向の方については食事量を調節し援助しています。水分は提供機会を多めに設定しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援しています。	2部屋に1つ広くて使い易いトイレがある。排泄チェック表にて個人のパターンの把握が出来ており、適時声かけ誘導で支援がされている。水分補給にも細やかな配慮がなされている。-3日を目安に主治医と相談の上便秘に対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立チェック・検食と、意識的な水分提供を行っています。便秘傾向のある方には主治医の指示を仰ぎ対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めてありますが、毎日お風呂を沸かしており、希望があれば入浴することが出来ます。併設のデイサービスにはチェアインバス(機械浴)も設置されており、下肢筋力の低下した方も安全に入浴できるようになっています。	広くて清潔で滑り止めの床・バリアフリーの浴室と、入浴が困難な利用者には併設デイサービスの機械浴があり、全員入浴出来る体制をとっている。入浴時の温度管理や見守りで安心・安全な支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズム支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を見やすく整理し、主治医や精神科医に状態を報告することで適切な服薬が可能になるよう支援しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や散歩、外出行事などの提供で気分転換や楽しみの提供を行っています。編み物や裁縫が得意だった方には御家族の協力も得ながら個別レクリエーションの一環として行っていただき、退屈なく過ごして頂けるよう心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり、100%ではありません。御家族に協力していただき遠方まで外出される方もいらっしゃいます。	毎日の散歩を基本としている。施設内の「みのりホール」でのリハビリや広く長い廊下を使った歩行訓練も外出と捉えて実施している。家族支援による外出も行われている。イベント外出として毎月企画・実施され、本年は浅草までの日帰り旅行が計画されている。	アンケートから家族の要望と施設の実施している支援に認識のズレが窺えた。毎月の請求書発送時に一人ひとりへの支援や日々の活動をこまめに発信する事で家族の理解が得られるよう工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については基本的に自由としており、御家族の判断に従う形となっています。所持している方への支援は行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡を取りたいとの訴えがあった場合にはユニットにある共用の電話を自由に使っていたいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かみのある雰囲気作りに配慮しています。室内に居ても四季を感じていただける装飾を心掛けています。また外出時の写真などを掲示し、ホームの様子を面会者の誰もがわかるよう工夫しています。	居間兼食堂は広くて清潔感に溢れ、吹き抜けの中庭には観葉植物も配置し、ベンチもあってゆっくりお茶等する寛いだ場所作りがなされている。写真や生け花も季節感を感じさせる。一人になりたい利用者にはイスが用意され、利用者一人ひとりへの細やかな気配りが窺える共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいという方はいらっしゃいません。そのような時は、皆さん自室に戻れることが多いようです。面会や気の合った仲間と過ごせるスペースは準備させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、火気の発生を伴う物品以外は自室への持ち込み制限は設けておらず、居心地良く過ごせる居室が出来上がっていると思います。	居室の各々の部屋は利用者の好みによって、整理筆筒・机・テレビ・仏壇等思い思いの物で今迄の生活を再現したように飾り付けされ、理念としている「居心地の良い家」となっている。ネームプレートも利用者目線に合わせて取り付けている。温水の出る洗面台やエアコンが設置されており快適な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解り易くするための表示や、居室札の個別化などで工夫しています。		